

2 経営健全化に向けた取組み

経費削減と営業強化に引き続き努めるとともに、本改革プランにおいては、経営健全化に向けた次の7つの取組みを実施します。

	取組内容	実施時期	取組効果
1	減資（資本金を65%減少）	令和2年3月	累積欠損金の圧縮と節税
2	運転資金を町から貸付（30,000千円）	令和2年3月	財務基盤の安定化
3	水産加工岩崎工場の閉鎖	令和2年3月	経営改善
4	楽天市場「ふかうら本舗」の閉鎖	令和2年3月	経営改善
5	まるはまらあめんの営業継続の検討	令和2年5月	経営改善
6	ガラス工房の電気代を町が半額相当負担	令和2年4月～	経営改善
7	ウェスパ椿山のコンセプト変更	令和2年～3年	売上向上

（株）ふかうら開発は資本金が210,000千円であるため大企業に分類され、経営状況が厳しい中であっても大企業と同様の法人事業税（外形標準課税）を納付しています。このため、会社の実態に即した資本金に減少することで節税を図るとともに、その補填によって累積欠損金を圧縮し資本構成を改善させます。さらに、町からの貸付金によって財務基盤の安定化を図ります。

また、不採算部門となっている「水産加工岩崎工場」と楽天市場「ふかうら本舗」は閉鎖します。

海の駅まるごと市場内にオープンした「まるはまらあめん」については、町中心部の賑わいの創出効果と営業損益の状況を確認しながら、営業継続の不可を判断していきます。

ウェスパ椿山のガラス工房は、当初の計画通りに風力発電による電気溶解炉稼働させることができず、電気代が重荷となっているため閉鎖を検討しましたが、ガラス製品の取引が増加傾向にあること、及び施設閉鎖が町全体への観光誘客に悪影響を及ぼす懸念があることから、電気代の半額相当を町が負担することで2022年度までに施設単独での黒字化を目指します。

このうえで、オープンから20年以上経ったウェスパ椿山は、新たな視点によるコンセプト変更を行いながらブランドの再構築を図り売上向上に努めます。

3 抜本的改革プランの進捗管理と今後の取組

本改革プランの進捗は、今後も（株）ふかうら開発経営会議において管理していきます。

また、2020～2022年度を改革前期（重点期間）、2023～2025年度を改革後期と位置付け、前期においてガラス工房及び水産加工深浦工場の黒字化が困難と判断される場合は、当該事業の廃止を含めた更なる経営改革（経営資源の集中化による業績向上）に努めていきます。

地域経済が低迷し、人口減少が著しい中において、第三セクターである（株）ふかうら開発が地域で果たす役割は依然として大きいことから、改革プランに則り、町と会社が一体となって経営健全化に不断の努力をしてまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。



観光産業を牽引する「ウェスパ椿山」



黒字化を目指すガラス工房「HOO(フォー)」

(株)ふかうら開発、経営健全化を期す

～抜本的改革プラン2019の概要～

（株）ふかうら開発は、平成元年10月に町及び民間資金によって設立されました。

以来、深浦町の魅力を県内外に広く発信することで地域産業の活性化と若者定住の促進に努め、平成4年度から14年度まで海中探勝遊覧船「ミエールふかうら」を運行し（平成15年4月廃止）、平成7年度からはウェスパ椿山の管理運営、さらには、つるつるわかめを開発して全国販売するなど、当町における観光産業を牽引してきました。

しかしながら、ここ数年は全国各地で発生する自然災害が影響して売上が減少傾向にあり、経費削減に努めているものの厳しい経営状況が続いています。

総務省は、地方公共団体に相当程度の財政的なりリスクが存在する第三セクター等において経営が著しく悪化している場合は、抜本的改革を含む経営健全化に速やかに取り組むよう要請しており、このような国の指導や第三セクターとしての責務を果たすため、このたび、（株）ふかうら開発経営会議において経営健全化に向けた抜本的改革プラン（改革期間2019～2025）を策定しましたので、その概要をお知らせします。

1 (株)ふかうら開発の現状

つるつるわかめがメディアで取り上げられた平成22～24年度は、売上が大きく向上して黒字決算となりましたが、その後は売上の減少により赤字決算が続き、平成27年度決算において債務超過となりました。

平成28年度からは、スクールバスや診療所バスの運行委託により当期利益を計上して若干の改善を見せたものの、平成30年度決算では1,273万円の当期損失を計上し、債務超過額は1,604万円、累積欠損金は22,604万円となっています。

